

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2013 年 8・9 月合併号

NO. 244

TOPICS

「対話は難し、されど可能性に満ちている」

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事 清水 正道
MESSAGE P3

「広報PRアカデミー2013」

「広報・PR実務スキルアップ講座 2013」開講
ATTENTION P4

「2013 年度「PRアワードグランプリ」

9 月 2 日からエントリー募集を開始！
ATTENTION P5

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6 丁目 2 番 31 号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <http://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島 2-1-27 桜橋千代田ビル 3F
電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人: 森 健

8・9月合併号 目次

9月10月のスケジュール	—	1
MESSAGE(メッセージ)	「対話は難し、されど可能性に満ちている」	— 3
ATTENTION(お知らせ)	「広報PRアカデミー2013「広報・PR実務スキルアップ講座2013」開講」	— 4
〃	「2013年度「PRアワードグランプリ」9月2日からエントリー募集を開始！」	— 5
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー2013 夏期のPRプランナー1次試験対応講座を終了」	— 7
〃	「第8回PRプランナー交流会 開催！」	— 8
〃	「7月25日「会員納涼懇親会」開催」(会員限定)	— 9
〃	「2013年夏「なでしこカウンスル」開催」(会員限定)	— 9
〃	「特別国際セミナー「ブルームバーグ東京支局のセミナーと見学会」」(会員限定)	— 10
〃	「企業部会広報活動研究会「キリン横浜ビアビレッジ」訪問」(会員限定)	— 10
VOICE of PR Planner	「文化施設だからこそ」	— 11
REPORT(講演レポート)	「第149回定例研究会開催報告」(会員限定)	— 12
PR TREND(PRトレンド(関西))	「関西の風：魔法瓶今昔物語」	— 13
BOOKS(書評)	「IR就活 就活生の誰もやっていない会社研究の極意」	— 14
PLAZA(会員便り)	「ウェーバー・シャンドウィックがメディアコ(Mediaco)サービスを順次開始」	— 15
〃	「猪狩誠也氏他執筆の“Historic evolution of public relations in Japan”が国際学術誌に紹介」	— 16
掲示板	「日本広報学会 第19回研究発表大会 開催のご案内」	— 17
協会掲載記事	「PRSJ in Media 7月」	— 18

9月～10月スケジュール

2013 年度「PRアワードグランプリ」 エントリー募集開始	日 時	: 9 月 2 日(月)～10 月 31 日(木)
広報PRアカデミー2013 「広報・PR実務スキルアップ講座」 ●プレスリリース強化講座	日 時 会 場 講 師	: 9 月 11 日(水) 13:30～17:30 : AP浜松町(芝パークビルB館 地下 1F) : (株)電通パブリックリレーションズ ナレッジマネジメント部 プロジェクトマネージャー 青田浩治氏
●マーケティングPR強化講座 (基礎編)	日 時 会 場 講 師	: 9 月 25 日(水) 13:30～17:30 : AP浜松町(芝パークビルB館 地下 1F) : (株)インテグレート 総合ソリューション部 部長 チーフプランナー 鈴木正人氏
●マーケティングPR強化講座 (応用編)	日 時 会 場 講 師	: 10 月 9 日(水) 13:30～17:30 : AP浜松町(芝パークビルB館 地下 1F) : (株)インテグレート 総合ソリューション部 部長 チーフプランナー 鈴木正人氏
第 11 回広報ゼミ(企業部会)	日 時 会 場 テーマ	: 9 月 13 日(金) 16:30～21:00 : 富士通(株) 24Fセミナールーム : 「グローバル広報」
特別国際セミナー	日 時 会 場 講 師 テーマ	: 9 月 17 日(火) 12:00～14:00 : 日本外国特派員協会(FCCJ) : :
2013 年度「PRアワードグランプリ」 エントリー説明会	日 時 会 場	: 9 月 18 日(水) 15:00～17:00 : 協会会議室
第 9 回企業部会フォーラム (企業部会)	日 時 会 場 講 師 テーマ	: 9 月 20 日(金) 18:30～21:30 : (株)NTTデータショールーム施設 INFORIUM : 朝日新聞社 取締役 デジタル事業本部長 西村陽一氏 : 「朝日新聞社のデジタル戦略、米国最新デジタル事業について」
米国研修旅行	日 時 訪問先	: 9 月 22 日(日)～28 日(土) : アメリカ東海岸(ニューヨーク・ワシントン)
第 150 回定例研究会	日 時 会 場 講 師 テーマ	: 9 月 27 日(金) 12:00～14:00 : 六本木アカデミーヒルズ 49 : (株)電通パブリックリレーションズ 第 2 ディレクション局次長 井口 理氏 : 「「カンヌライオンズ 2013」にみる戦略PRのエッセンス ～生活者の意識変革、態度変容を生み出す 斬新なPR視点を学ぶ～」
第 12 回広報ゼミ(企業部会)	日 時 会 場 テーマ	: 10 月 16 日(水) 16:30～21:00 : (株)ミツカングループ本社 : 「マーケティング・コミュニケーション」

9月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（9月度）	日 時	： 9 月 10 日（火）	12：00～14：00
	場 所	： 六本木ヒルズクラブ	
幹部会（経営会議）（9月度）	日 時	： 9 月 10 日（火）	10：30～11：45
	場 所	： 協会会議室	
教育委員会（9月度）	日 時	： 9 月 12 日（木）	12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室	
資格委員会（9月度）	日 時	： 9 月 26 日（木）	12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室	
交流委員会（9月度）	日 時	： 9 月 19 日（木）	12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室	
広報委員会			
PR小委員会(9月度)	日 時	： 9 月 2 日（月）	12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室	
出版小委員会(9月度)	日 時	： 9 月 18 日（水）	17：00～18：00
	場 所	： 協会会議室	
顕彰委員会(9月度)	日 時	： 9 月 18 日（水）	12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室	
企業部会幹事会（9月度）	日 時	： 9 月 2 日（月）	17：00～18：00
	場 所	： 協会会議室	
PR業部会幹事会（9月度）	日 時	： 9 月 12 日（木）	16：00～18：00
	場 所	： 協会会議室	

対話は難し、されど可能性に満ちている

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事 清水 正道

「実務の人間にとって学会は敷居が高いですよ」。その言葉を、何人もの広報部長からいただいた。私自身、社内報からメディア対応、危機管理、グループC I展開まで、15年にわたり企業・団体の広報実務を手がけてきただけに、応答する言葉に詰まるのが重なる。

6月11日に日本広報学会 理事長を拝命して2ヶ月が過ぎた。いま、総会後の懇談会での挨拶を思い出しつつ法人会員の訪問を続けている。挨拶の折に当面の課題として掲げたのは、①運営事務の効率化、②法人会員との対話、③グローバル化への対応の3点だった。

事務効率化は前職での経験もあり工程表はすぐ作れたが、対話は、言うは易く行うは難し、である。まして意見・要望を聞き続けると気も疲れる。しかし年度内に、すべての法人会員の方々と話を交わし続けるという旗は降ろさないつもりだ。

それは当協会(PRSJ)を含めて、広報・PR関係団体の実務家からの「見え方」が紛うことなく我が身に映り込むからである。広報マネジャーの頃から、PRSJ会員には20年以上、日本広報学会は設立時からの会員だから18年になる。加えて、各種研究会や委員会、セミナーなどで議論し、時に一献を傾けて交歓してきた広報パーソンは数知れない。だから不遜にも「ある程度わかっている」と思っていた。しかし、そうではなかった。

今それは、天の配剤だったかもしれない、と思う。行政の広報改革や環境／CSRコミュニケーションの支援を通じて、あるべき目的実現のためには、住民やステークホルダーとの対話やエンゲージメントが出発点と説いてきたのだから。

むろんここまでの取組は、当面の対応にとどまる。だからカウンセリング技法を真似て、意見や希望を鸚鵡返し法で考え続けている。いつも参照するのが本学会会則に謳う3つの目的だ(表現は要約)。a)は紛うこともないが、b)、c)はどうか。

- a) 学術的・実践的な研究による「理論としての体系化」
- b) 開かれた経営体に必要とされる施策の「展開方法及び技法の開発」
- c) 国際社会に通用する「広報マインドの醸成」

実は対話の本源は「続けること」と、その継続からの「関係性の質的転換」にある。

広報部長だった頃のこと。体制・人員を整備しニュースリリースを継続的に出せるようになると、逆にコミュニケーション・パフォーマンスが落ちてきた経験がある。部員はますます、効果を上げようと工夫する。どうすれば記事化していただけるか？ 説得の発想になる。対話と乖離すればするほど、さらに「効果的な説得」を試みる。

広報とは、効果的な説得技法の一つなのだろうか？ その時の疑問を抱いて企業・行政の広報コンサルにも携わったが、あまりよい成果を挙げたとは思えない。なぜなら対話といいながら、我が身を硬くしたまま、相手だけ変えたいとしていたからだ。

ロジャースの「コミュニケーションの螺旋収束モデル」では、対話者が相互に「解釈－表現」を繰り返していく行為が描かれる。このモデルにおいて、個人A(清水)と個人B(企業広報部長)の個人間コミュニケーションから、自律体A(理事会)と自律体B(企業広報部門)に転換することができた(構造的カップリングと言う)ならば、組織間ネットワークが形成されるはずである。すなわち会員(広報部門)による学会活動の積極的参加と施策開発が実現されることになる。しかし、待てよ、である。

やはり、まず私が変わらなくてはいけないようだ。

広報PRアカデミー2013

「広報・PR実務スキルアップ講座 2013」

9月11日、25日、10月9日に開講

— プレスリリースとマーケティングPRの実務能力強化 —

教育委員会

教育委員会では、来る9月11日、9月25日、10月9日の3回にわたって「広報PRアカデミー2013 広報・PR実務スキルアップ講座」を東京港区の「AP浜松町」にて開講します。

今年は、ネットにより大きく変化したメディア環境におけるプレスリリースの新しい活用法と、広報・PRを活用した市場開発の効果的な手法として注目されるマーケティングPRの基本と応用をテーマとした3講座を開講します。それぞれの分野に経験の深い講師によるポイントを押さえた講義と、技能を確実に習得できるグループワークにより、受講者の実践能力を強化します。

各講座の概要は以下です。皆様の受講をお待ち申し上げます。

■「広報・PR実務スキルアップ講座」の概要

日 時	講座テーマ	講座概要	講 師	締切
9月11日 (水) 13:30 ～ 17:30	プレスリリース強化講座 「プレスリリースの最新活用法～進化するリリース戦略」	プレスリリースの作成に関する基本的な知識をベースに、リリースによる情報拡散について理解します。さらにテレビや雑誌等の多様なメディアにマッチした広報資料の作成、リリースにもとづく複合的な情報発信のポイント等について講義と演習を通じて習得します。	(株)電通パブリックリレーションズ コミュニケーションデザイン局 プロジェクト・マネージャー 青田浩治 氏	9月 6日 (金)
9月25日 (水) 13:30 ～ 17:30	マーケティングPR強化講座(基礎)	市場における製品・サービスの導入や普及を促進するマーケティングPR。広告が効かなくなったといわれる今、その活用は、企業・団体が進める事業を効果的に支援します。本講座ではマーケティングPRの概念や実践に必要な考え方を的確に理解し、それにもとづくマーケティングPR活動の計画と推進のポイントについて、講義と演習を通じて習得します。	(株)インテグレート 統合ソリューション部 部長／チーフプランナー 鈴木正人 氏	9月 20日 (金)
10月9日 (水) 13:30 ～ 17:30	マーケティングPR強化講座(応用)	従来のマーケティングPRの概念を超え、新たな市場を創造する戦略的な手法として注目されるIMC(統合マーケティング・コミュニケーション)。本講座では、IMCの基本的な概念や導入・活用の考え方、多彩な事例を講義を通じて理解し、さらに多彩なメディアを活用するIMCの計画作成や推進のポイントについてグループワークを通じて習得します。		10月 4日 (金)

●会 場：AP浜松町（東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館 地下1F）

●定 員：各40名

●受講料：受 講 料（消費税込、各講座それぞれ）

日本PR協会会員社員 21,000 円

PRプランナー（准・補）取得者 26,250 円

一般 31,500 円

※日本PR協会会員社員の受講料は法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみとなります。

■講座詳細/お申込み：

“広報PRアカデミー2013” ページから所定のフォームに記入しお申し込みください。

<http://event.prsj.or.jp/pr-academy-2013>

2013 年度「PRアワードグランプリ」 9 月 2 日からエントリー募集を開始！

顕彰委員会

優秀な活動を表彰・公開し、コミュニケーション技術の質的向上を図る目的としてスタートした「PRアワードグランプリ」のエントリー募集を9月2日から開始いたしました。

今年度も会員のみならず、広く一般からもエントリー募集をいたします。また、昨年同様、経済産業省、日本広報学会、(公社)日本広報協会からご後援をいただきました。

皆様におかれましては、奮ってエントリーをお願いいたします。

■「PRアワードグランプリ」募集概要

- ・募集開始：2013 年 9 月 2 日（月）
- ・後援：経済産業省、日本広報学会、公益社団法人 日本広報協会
- ・告知：協会ホームページ等
- ・応募作品：(公社)日本パブリックリレーションズ協会の会員社ならびに非会員の企業・団体が実施あるいは参加したコミュニケーション活動
- ・対象期間：最近 1 年間（2012 年 10 月～2013 年 9 月）に成果があがった活動、または 2012 年 10 月以前から実施し、複数年にわたり現在でも継続している活動
- ・応募部門：
 - コーポレート・コミュニケーション部門
 - マーケティング・コミュニケーション部門
 - ソーシャル・コミュニケーション部門
 - イノベーション／スキル部門
- ・募集締切：2013 年 10 月 31 日（木）必着
- ・エントリー方法：郵送
- ・エントリー条件：
 - ・会 員：10,500 円／1 作品（消費税含む／振込手数料別途）
 - ・非会員：21,000 円／1 作品（消費税含む／振込手数料別途）
- ・審査方法：

部門審査会、合同審査会、最終審査会の 3 つのステップを通じて、厳正に審査を行います。

1. 部門審査会

各部門ごとに部門審査員がエントリーシートをもとに在宅審査を行い、各自上位 3 作品を選出したあと一堂に会し、補足資料も参考に協議の上、各部門の上位優秀 3 作品を選出する。各部門の審査員は 5 名で構成。審査員長は学識経験者から、審査員は昨年度の入選入賞者を中心に、企業及び団体から 2 名、PR 業から 2 名。

<部門審査員>（敬称略）

- コーポレート・コミュニケーション部門（5 名）
 - ・部門審査員長：井上 邦夫（東洋大学 経営学部経営学科 教授）
 - ・部門審査員：入選入賞者を中心に 4 名

■マーケティング・コミュニケーション部門（5名）

- ・部門審査員長：田中 洋（中央大学大学院 戦略経営研究科 教授）
- ・部門審査員：入選入賞者を中心に4名

■ソーシャル・コミュニケーション部門（5名）

- ・部門審査員長：駒橋 恵子（東京経済大学 コミュニケーション学部 教授）
- ・部門審査員：入選入賞者を中心に4名

■イノベーション／スキル部門（5名）

- ・部門審査員長：濱田 逸郎（江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授）
- ・部門審査員：入選入賞者を中心に4名

2. 合同審査会

4 部門から選出された作品をもとに、各部門審査員長 4 名が一堂に会し議論し、各部門間のバラツキを検証し、最終審査会持込作品を決定する。

3. 最終審査会

最終審査会・発表：2013 年 12 月 3 日（火）

最終審査会では、部門審査を通過した作品について各エントリー企業・団体からのプレゼンテーションを行う。（1 社 10 分）

審査方法は、①特別審査員（5 名）②各部門審査員長（4 名）③公募による一般審査員（1 社・団体から 2 名まで、計 40～50 名予定）の審査結果を統括しポイント制によって、グランプリをはじめ各賞を決定する。

<最終審査員>（敬称略／氏名 50 音順）

■特別審査員（5 名）

- 阿久津 聡（一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授）
- 猪狩 誠也（東京経済大学 名誉教授）
- 大宅 映子（評論家・コメンテーター）
- 田中 里沙（株式会社 宣伝会議 取締役副社長・編集室長）
- 仲 舎菜子（経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐）

■各部門審査員長（4 名）

- 井上 邦夫（東洋大学 経営学部経営学科 教授）
- 駒橋 恵子（東京経済大学 コミュニケーション学部 教授）
- 田中 洋（中央大学大学院 戦略経営研究科教授）
- 濱田 逸郎（江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授）

■一般審査員 40 名～50 名（予定）※PR 協会会員および非会員から公募により選出

（1 社 2 名まで）

・表彰

- 「PR アワードグランプリ」 1 作品（表彰盾と副賞 10 万円を授与）
- 「PR アワード 最優秀部門賞」 4 作品（各部門 1 作品）（表彰盾と副賞 5 万円を授与）
- 「PR アワード 優秀賞」 7 作品（各部門 2 作品以内）（表彰状を授与）

・「PR アワードグランプリ」上位入賞作品を以下で紹介

- ・PR 協会 Web サイト
- ・PR 協会発行のイヤーブック
- ・協会主催のセミナーなど

なお、詳しい応募内容は、以下の協会ホームページをご参照ください。

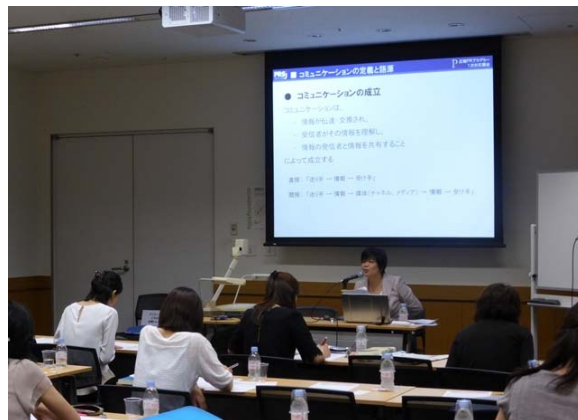
http://www.prsj.or.jp/shiraberu/award/entry2013_award

広報PRアカデミー 2013

夏期の「PRプランナー1次試験対応講座」を終了

教 育 委 員 会

8月6日、六本木アカデミーヒルズ 49 にて4回にわたり開講された「PRプランナー1次試験対応講座(夏期)」が終了しました。8月25日には、東京、大阪、名古屋、札幌において「第13回PRプランナー認定1次試験」が実施されており、多数の講座受講者が受験しました。4回の1次試験対応講座で実力を向上させた受講者の合格が期待されます。



1次試験対応講座は、過去の試験で実際に出題された問題を使用した模擬試験を行い、1次試験の形式やレベルのみならず、広報・PRに関する基本的な知識の習得を目的とした講座です。本試験の半分となる25の問題を40分で回答し、その後、正答について講師が解説を行う形式で進行、試験対策として有効性を高めた実践的な講座として開講しました。

特に、本講座では、インターネットを利用し会場外からの受講を可能とした「Web 受講サービス」も提供されており、会場外からの受講だけでなく、自身の都合の良い時に受講可能な動画データのアーカイブを利用できます。このため、今回の1次対応講座でも、多くの受講者が本システムを活用し効果をあげています。

講師は、㈱ILCCの永井 昌代氏と事務局 真部の2名が担当しました。

今回の1次試験対応講座は来年2月に開講の予定です。募集詳細の公開ならびに受講受付は、12月より日本PR協会のWebサイトにて行います。



「第 8 回 P R プランナー交流会」開催！

—各方面で活躍する P R プランナー 60 名が参加—

資 格 委 員 会

さる 6 月 12 日、東京・東銀座のアサツー ディ・ケイ 11F ラウンジにおいて、「第 8 回 P R プランナー交流会」が、約 60 名の P R プランナーの参加のもとに開催されました。

P R プランナー交流会は、各方面で活躍する P R プランナー資格取得者が業界や企業の枠を越えて一堂に会し、研鑽と親睦を深める催しです。2009 年 11 月に第 1 回の P R プランナー交流会を初開催して以後、約半年に 1 回のペースで開催を続け今回で第 8 回を迎えました。

P R プランナー交流会は第一部に研鑽を目的とした企画、そして第 2 部は立食パーティの形式で交流を深める懇親会を設けるという 2 部構成で実施されています。

今回、第 1 部では、エートゥーゼットネットワーク代表の石橋 眞知子氏を講師に迎え、「異文化交流」をテーマとしたワークショップを実施しました。石橋氏は、新聞・雑誌へのエッセイ執筆をはじめ、「異文化交流」やマナーをテーマとしてレクチャー、各企業の P R プロデュース、コンサルテーション、パーソナルアイデンティティ幅広い仕事を手がけ、広範囲な活動を行われています。今回のワークショップ「クロストークゲーム」は、グループに分かれた参加者が設定されたテーマに関する賛成者、反対者の立場から議論を交わすことを通じて、論理的に試行しながら課題を多角的に捉えることの重要性を楽しみながら体得するトレーニングです。参加者の多くが議論を通じて相手を説得する難しさを認識し、広報・P R 活動に欠かせない論理的なコミュニケーションの重要性に気付きを得たようでした。



第 2 部の懇親会は、日本パブリックリレーションズ協会資格委員会の西垣副委員長の挨拶、交流会準備委員の乾杯でスタートしました。会場の一角では、パスタで作る塔の高さを競うゲーム「マシュマロチャレンジ」も行われて、終始なごやかな雰囲気の中で閉会の時を迎えました。

多くの参加者が 11 月予定の「第 9 回 P R プランナー交流会」での再会を約し、名残りを惜しむ参加者の笑顔に包まれ、当日の交流会は終了しました。



会 員 限 定**7 月 25 日「会員納涼懇親会」開催**

— 交 流 委 員 会 —

7 月 25 日（木）19 時から、恵比寿のペルー料理店「ミラフローレス」にて、「会員納涼懇親会」が開催されました。本年は新たな試みとして昨年までの講演と懇親会の 2 部構成ではなく、「たのしい」を主体とした懇親会のみでの開催となりました。

はじめての試みでしたが、ワンナイトショー企画として、マジックショー、スチロール切り絵芸、ペルー一発芸等、大いに盛り上がり、会員同士の交流も活発に行われ、成功裡の内に終了しました。参加者は 31 名。

2013 年夏「なでしこカウンスル」開催

— 交 流 委 員 会 —

7 月 10 日（水）、レストラン“クルーズクルーズ THE GINZA”にて「2013 年夏 なでしこカウンスル」が開催されました。定員 20 名に対し、早くからお申し込みをいただき、当日は 23 名の広報に携わる女性たちが参加しました。

今回は PR プロデューサー（株）TM オフィス 代表取締役 殿村美樹氏をお招きし、「ズラして、一発逆転」についてお話をいただきました。参加者は 23 名。

アンケートを実施しましたが、概ね好評で、今後のなでしこカウンスル開催に反映し、女性広報担当者の交流の活性化と、PR プランナー、准 PR プランナー、及びプランナー補の活性化につながる活動を続けていく予定です。

会 員 限 定**特別国際セミナー****「ブルームバーグ東京支局のセミナーと見学会」****～2013 年 6 月 21 日(金)実施～****交 流 委 員 会**

交流委員会では、去る 6 月 21 日（金）12 時～13 時 30 分、東京・丸の内の Bloomberg NEWS（ブルームバーグ・ニュース、所在地：東京都千代田区丸の内 2-4-1 丸の内ビルディング 21F）にて、特別国際セミナーを開催し、あわせて同社の社内見学会を実施しました。

約 35 名の参加者は、ランチのあと、東京・韓国支局長のブライアン・ファウラー氏からのご挨拶に続き、東京副支局長の谷合謙三氏によるセミナーを受講しました。

セミナーのあと、2 班に分かれ、活気にあふれた支局内を見学しました。

広報活動研究会**「麒麟横浜ビアビレッジ訪問」****～2013 年 7 月 16 日(火)実施～****企 業 部 会**

7 月 16 日（火）第 8 回「広報活動研究会」麒麟ビアビレッジを訪問しました。

麒麟の C S V への取り組みについて同社 C S V 本部 C S V 推進部脇坂主査からお話を伺ったあと、醸造工程、瓶詰工程など製造工程を見学、さらに併設レストランにて懇親会を行いました。

同地でしか飲めない限定ビールを試飲させていただきました。参加者は 32 名。

文化施設だからこそ

東京国立近代美術館 工芸課
研究補佐員 稗田 竜子

1 回休み、の間にバトンを受け取りました稗田 竜子です。(株)セレスポの越川さんからは過分に素敵な紹介をさせていただいて緊張しておりますが、どうかバトンを落としませんように。

そんな越川さんをはじめとするPRパーソンとの出会いをうれしい誤算と言ったら、失礼にあたるでしょうか。映画配給宣伝会社を経て東京国立近代美術館に勤務、新設のほぼ独りの工芸課広報ということになる私には貴重なつながりにも係わらず、実のところ、取得後に誰かと知り合えたり、交流会で意気投合できたりするかもしれないと思ってもしなかったのです。「PRは何か」「広報と広告の違い」を説明せずに語れることがこんなに心地いい関係なんてちっとも知りませんでした。そのくらいに5年前の私の周囲では広報・PRという観念がなかったということなのですが。

いわゆるアートは一部の特別な人を除けば、生きていくのになくってはならないもの、ではありません。それでも評価し残すことが求められ、時代の空気を映す文化と一時的な熱狂・流行とを区別することを求められるもの、求められているはずのものです。少なくともアートミュージアム（美術館）ではそうした自負で、展覧会を考える際に「集客できる作家ではなく、紹介する価値のある作家」という表現も使われます。そんな命題を負う文化施設だからこそ、自身の広報・PRにも同様の目線から、パブリックリレーションズを築けるようではなくてはと考えています。

現職は、学芸員のアシスタントとして、展覧会の広報を中心に接客から時には展示の企画、作品の取り扱いにも従事しますが、大学での専攻は法学と美術からほど遠く、学芸員資格は持っておりません。「学芸員」の仕事に「学芸員資格」もなくてはならないものではないのです。とはいえ、仕事を任せられるまでには代わりに時間とチャンスが必要です。当館は大きく美術、工芸、映画の三つに分かれた学芸部門、そして事務部門があり、広報は各学芸課の所属になります。つまりただでさえ、一つの美術館でありながら広報が分散し、お互いがある種ライバルのような、広報同士の連携の取りにくさや全体を見渡す担当の不在が大きく引っかかっていました。体系立てて勉強したこと、理論的裏付け、いろいろなケーススタディ、それらを周囲に速やかに納得してもらおうため、インナーコミュニケーションのため、それが受験動機でした。「広報」の仕事には「PRプランナー資格」を利用することにしたわけですが、大いに有効だったことは強調しておきます。うれしい誤算も含めて、受験はもちろん大正解でした。

その一方で、PRプランナー資格試験自体の存在や価値が少しずつ変わっていくのを望んでもいます。受験まで至らなくても、職業に選ばなくても、それ以上に多くの人がパブリックリレーションズの何たるかは理解しているというように、その一助を担えればこんなにうれしいことはありません。

これからもあるに違いない新しい出会いのみならず、PRプランナー資格は旧交を温めるのにも一役買ってくれました。これも何かのご縁、次はピアーールコンビナート(株)の蜷川昭文さんへお願いしようと思います。

会 員 限 定**第149回定例研究会**

**徹底的な取材で真相を描く
「週刊ダイヤモンド」の編集方針
—創刊100年を迎えるビジネス週刊誌のこれからの展開—**

**講 師：(株)ダイヤモンド社「週刊ダイヤモンド」編集長
小栗 正嗣氏**

第149回定例研究会（6月度）は7月5日（金）、日本外国特派員協会（FCCJ）で開催しました。

講師は、ダイヤモンド社「週刊ダイヤモンド」編集長 小栗 正嗣氏。テーマは「徹底的な取材で真相を描く『週刊ダイヤモンド』の編集方針 —創刊100年を迎えるビジネス週刊誌のこれからの展開—」。参加者は76名。



<コラム 関西の風>

魔法瓶今昔物語

象印マホービン(株) 広報部長
西野 尚至

広報の仕事を担当するようになり、いろいろな場面で『なぜ魔法瓶メーカーは動物の名前が多いのか?』という質問をよく受けます。なぜだと思われますか?

答え合わせをする前に、近年の魔法瓶業界の動向について少し触れさせてください。

最近の魔法瓶の主流は、マイボトルブームでお馴染みのステンレスボトルや、ランチタイムに手軽にスープを楽しめるフードジャー（スープジャーとも呼ばれている）など、ステンレス製のものが大半を占めており、昔ながらのガラス製の魔法瓶、いわゆる卓上ポットの需要は年々減少傾向にあります。

余談ですが、今でも居酒屋などで焼酎のお湯割りを作るのに、年季の入ったガラスの魔法瓶が出てくると、職業柄「どこのメーカーの商品かな?」とチェックを入れたりします。自社製のものだと妙に嬉しく感じたりすると同時に、お湯割りの味も美味しく感じて、ついっとお酒の量が増えてしまいます。

さて、本題に戻りまして、冒頭の答え合わせです。

ヨーロッパで生まれた魔法瓶が日本に伝わって約 100 年が経ちます。明治末期から日本でも独自に製造するようになったのですが、当時の魔法瓶はほとんどがアジアへ輸出されており、内需は 1 割にも満たない程度でした。そのため、各メーカーは、日本語が通じないアジアの人々に認識してもらうためのマーク（商標）が必要だったのです。それが“象”（象印マホービン）であり、“トラ”（タイガー魔法瓶）であり、“孔雀”（ピーコック魔法瓶）だったのです。現地の人々に親しまれている動物ばかりではなく、“星”や“山”をマークにしたメーカーもありました。

ちなみに、弊社が“象”を採用した理由は、強くて優しく子供にも人気の動物であるということはもちろん、象はアジアでは神聖視されていたからです。

最後に弊社のPRをひとつ。

本社（大阪市北区天満）1 階の「まほうびん記念館」では、各時代のさまざまな魔法瓶や、弊社のエポカルな商品を常設展示しています。また、11 月末までの期間限定で、「魔法瓶の名付け親は誰だ?」と題した企画展を実施しており、前館長の長年の研究により、今まで不明とされていた「魔法瓶」の名付け親が判明したエピソードを紹介しています。

大阪にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

『IR就活 就活生の誰もやっていない会社研究の極意』

前澤 秀忠：著 中央経済社：刊 (2013年6月19日) p208
価格：1,200円＋税

この本は、就活生のほとんどがやっていない会社研究の方法、プロの投資家が良い会社を見つけるために使っている「IR情報」、就活生も「IR情報」を使えば、本当に良い会社、自分に合った会社がきっと見つかります。就活生のための会社研究の新バイブルです。

今や有名な大手企業だからといって経営が安定しているとは限りません。IR情報を使うことにより、大手企業や老舗企業というネームバリューに隠れて見えない客観的な事実を知り、会社説明会では話されない財務状況や経営状態を知ることができます。それにより、将来入りたい会社を選択し、その会社が自分に合っているかどうか、しっかりとした判断ができます。

これからの就職活動は会社のIR情報を読み解くことで、就職活動をはじめる学生に圧倒的に足りない企業を理解することができ、志望動機もより良いものとなります。

就活生の誰もやっていない会社研究を始めるにはまずどうするか、IR情報をどのように見るか、この本では、5つの章から説明しています。

具体的な社名及び代表者名を挙げて、「社格」(社長力・理念力・人材力・安心力・ガバナンス力・情熱力)、「社力」(今日性・将来性・収益性・安全性・効率性)、IR情報でのケーススタディ等、個人投資家の目線で会社を選ぶコツを伝授しています。

これから就職活動をはじめようとしている皆さんへ、参考となる1冊となっています。



■ 会員便り

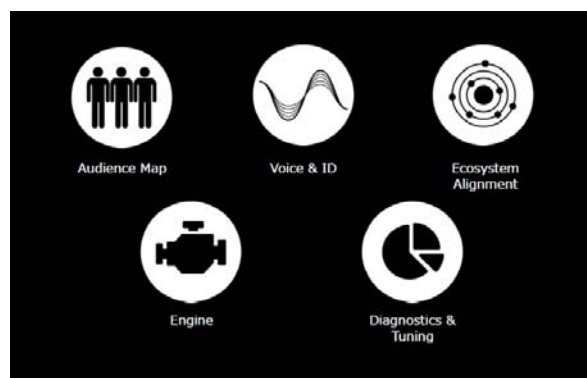
“企業のメディア化”を支援するコンテンツ創出システム 「メディアコ(Mediaco)」サービスを順次開始 グローバルで100名を超える専門家がウェーバー・シャンドウィック アジア太平洋地域で

ウェーバー・シャンドウィックは、アジア太平洋地域においてグローバル企業向けに自社のコミュニケーション資産を対外的に発掘・加工・発信する「メディアコ (Mediaco)」サービスを 8 月から開始しました。「メディアコ」は、“企業のメディア化”を支援するための、編集・企画・制作・ペイドメディアを組み合わせたサービスです。

企業のブランディングとレピュテーション（評判・評価）を構築するために、ニュースやコンテンツを既存メディア向けに配信するだけでなく、企業自身が独自のメディア（オウンドメディア）を持ち、継続的、即時的に自社コンテンツを配信する仕組みが注目されてきました。当社はこのような企業の要望に対応して、企業のオウンドメディア機能を企業外からサポートするために、コンテンツを加工するスタジオ機能だけでなく、戦略立案から、コミュニケーション資産発掘、情報加工、配信、増幅、コミュニティづくりまでを行う、統合的な対外情報発信プラットフォーム「メディアコ」を構築しました。北米と欧州では、2013 年はじめからサービスを開始しています。

「メディアコ」サービスチームには、プランナー、プロデューサー、編集者、ライター、ユーザーエクスペリエンスデザイナー、SEO 専門家、CGI アーティスト、アニメーターなど 100 名以上の専門家が参加しています。北米と欧州のグローバル企業のメディア化を支援し、全世界に包括的なコンテンツを提供して、オーディエンスとのエンゲージング（関係構築）に重要な役割を果たしています。

アジア太平洋地域では、包括的なデジタルサービスを手掛ける香港拠点のスタジオを中心に、その他 4 拠点（北京、シンガポール、シドニー、ニューデリー）のスタジオを活用し、今後日本市場においても順次サービスを提供予定です。



※ この件に関するお問い合わせは下記をお願いします。

ウェーバー・シャンドウィック・ワールドワイド(株) 石井・楠

TEL : 03-5427-7313

E-mail: sishii@webershandwick.com

mkusunoki@webershandwick.com

Website : <http://webershandwick.jp/>

<http://www.webershandwick.asia>

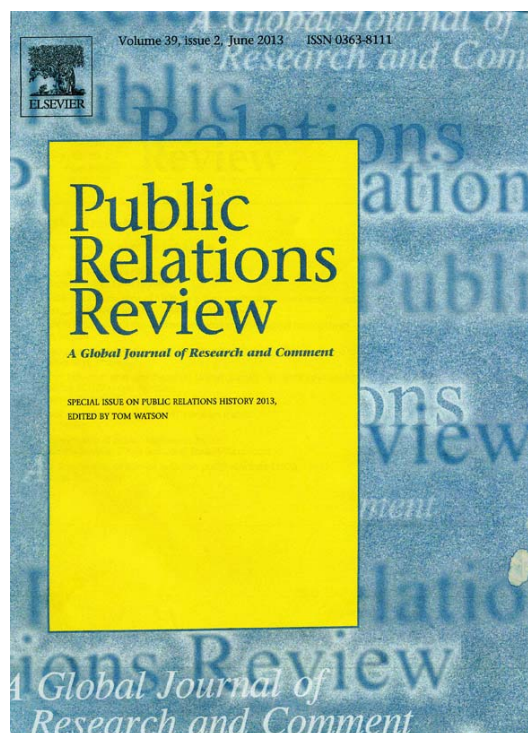
<http://www.webershandwick.com>

■ 会員便り

当協会特別会員の猪狩誠也氏 他 2 名が執筆された英文文献 “Historic evolution of public relations In Japan”が国際学術誌 “Public Relations Review”で紹介されました。

このたび、東京経済大学 名誉教授 猪狩誠也氏、名古屋文理大学 教授 剣持 隆氏、㈱メディア・ゲイン 副社長 山村公一氏の三者が執筆された「Historic evolution of public relations in Japan」が、国際的な学術誌「Public Relations Review - A Global Journal of Research and Comment」(special issue on public relations history2013、edited by Tom Watson)に掲載されたので、その経緯を猪狩誠也氏からご報告いたします。(以下、敬称略)

2011 年 3 月、猪狩誠也、小川真理生、北野邦彦、剣持 隆、濱田逸郎、森戸規雄の 6 名の日本広報学会 広報史研究メンバーはそれまでの研究成果を「日本の広報・PR100 年 ― 満鉄からCSRまで」という書名で上梓した。日本の広報、PR の歴史はここまで体系的に書かれたものはなかったこともあったからか、2011 年度の「PR アワード グランプリ」イノベーション部門の優秀賞、日本広報学会の「教育・実践貢献賞」を授与された。



刊行直後、山村公一より「この本のエッセンスを論文にしないか、それを私が英訳し、英国ボーンマス大学 トム・ワトソン教授主催の「International History of Public Relations Conference」で発表しよう」と奨められた。山村はボストン大学、フロリダ大学院で学び、パブリックリレーションズの修士号を得ているので、エッセンスを英訳、剣持、山村、猪狩の 3 名で 2012 年 7 月、ボーンマス大学の学会発表に参加した。この会議は 60 人ほどの PR の歴史研究者が世界の 20 カ国から集まり、2 日間、20 名ほどの発表を聴き、討議するのである。いわば PR 史の分科会にこれだけの研究者がいることには驚かされた。

さらに後日談が続く。この論文を「Public Relations Review」という学術誌の年 1 冊だけ出る歴史特集号に掲載しようということになったのである。もちろん【査読つき】である。再び 3 名で集まり、発表時に出た質問や外国人にわかりにくかった表現などを読み直し、書き直しを始めた。山村から我々の日本語の論文がいかん英文に翻訳しにくい、改めて私の論文の論理構成がいい加減かを教えられたのである。結果的に 9 ページ、約 8,000 語の論文となり、書き直しも行い、査読をパスした。

なお、ボーンマスでの 20 ほどの発表論文のうち、雑誌に掲載されたのは 8 本ほどだった。恐らく世界各国の中で、日本のパブリックリレーションズの研究レベル、特に歴史に関しては決して進んでいる方とは言えないことだけは痛感したのである。

日本広報学会より以下のとおり「第 19 回研究発表大会」開催のご案内をいただきましたので、会員の皆さまにお知らせいたします。

『日本広報学会 第 19 回研究発表大会』 開催のご案内

日本広報学会は、「第 19 回研究発表大会」を 10 月 5 日（土）6 日（日）の日程で、東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）にて開催いたします。

今年の大会では統一論題として「レピュテーション・マネジメントにおける広報課題」を掲げ、近年、欧米のみならず日本でも注目が集まるようになってきているレピュテーション（評判）の概念に焦点を当て、これをマネジメントすることの意義と課題について考えます。

大会初日の 5 日には、基調講演者としてオランダ王国アムステルダム自由大学のユープ・コーネリセン教授を迎える予定です。同教授はコーポレート・コミュニケーション研究の若手第一人者として知られており、基調講演からは最新の知見や視点が得られるものと期待できます。

なお、東洋大学は昨年 11 月に創立 125 周年を迎え、地下 1 階・地上 8 階建ての「125 周年記念館」が竣工しています。本大会では、この記念館の 7 階にある 125 記念ホールをメイン会場として使用する予定となっています。

本大会は、広報学会会員以外の方々も参加することができます。広報研究を心ざす多くの広報・PR 関係者の参加を期待します。

記

- 開催日時 : 2013 年 10 月 5 日（土） 10:00～20:00（受付開始 9:30、懇親会 18:30～）
10 月 6 日（日） 10:00～16:30（受付開始 9:30）
- 会場 : 東洋大学白山キャンパス「125 周年記念館（8 号館）」7 階および 1 号館 5 階
東京都文京区白山 5-28-20
・都営地下鉄三田線「白山」駅 A3 出口から「正門」徒歩 5 分
・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1 番出口から「正門」徒歩 5 分
- 参加費 : 前納：4,500 円 当日：5,500 円／学生会員は前納：2,500 円 当日：3,000 円
（参加者には予稿集を 1 部配布。追加は 1 部 1,000 円で販売。）
懇親会 前納：5,000 円 当日：5,500 円
／学生会員は前納：2,500 円 当日：3,000 円
- 大会詳細 : 日本広報学会のホームページをご参照ください。
- ・参加申込み <http://jsccs.jp/index.html>

※この件に関するお問合せ

日本広報学会 事務局長 矢野 充彦

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-2-7 第二浦野ビル 402

Tel：03-5283-1104 Fax：03-5283-1123

e-mail：jsccsty@gamma.ocn.ne.jp

PRSJ in Media

● 7月1日（月） 『月刊広報会議』8月号

㈱宣伝会議の『月刊広報会議』8月号の巻頭特集「広報のコストと効果を見直す」中の「広告費に代わる効果指標の開発を目指そう」において、当協会の研究チームが2005年にまとめたわが国主要企業の広報効果測定の実態調査について触れられています。当時、多くの企業が「報道分析」を採用し、その手法が高いレベルに達しているとの研究チームの指摘などが、紹介されています。

● 7月1日（月） 『月刊広報会議』8月号

『月刊広報会議』8月号に、当協会からの投稿による連載コラムが掲載されました。5月30日に開催された通常総会において示された当協会の人材育成と広報・PRの啓発の方向性が紹介されています。人材育成については、PRプランナー資格認定制度、広報PRアカデミー、PRプランナー試験対応講座等の活動内容、パブリックリレーションズに関する顕彰活動として日本PR大賞、PRアワードグランプリなどが取り上げられています。

● 7月8日（月） 『日本事務機器新聞』

当協会が実施した2013年度のPR業に関する実態調査についての記事が「日本事務機器新聞」に掲載されました。本調査の概要について紹介され、2012年度における調査対象企業の平均売上高、13.6%増 901億円となる市場規模推計、SNSの利用によるPR需要やコンサルティング業務の伸び、2013年度における1社あたり売上予想など調査結果のポイントが紹介されています。

● 8月1日（木） 『月刊広報会議』9月号

『月刊広報会議』9月号における当協会のコラムで、PRプランナー資格認定制度が解説されています。本コラムでは、試験制度の目的、認定資格の種類、対応講座、受験者の広がり等の概況が紹介されました。

● 8月21日（水） 『財経新聞』（Web版）

当協会がニュース発表した2013年度の「PRアワードグランプリ」のエントリー募集開始に関する内容が、財経新聞のWeb版に紹介されました。PRアワードグランプリの目的や概要、募集要項、震災などの概要がニュースリリースにより掲載されています。

● 8月5日（月） 『ファインドスター広告ニュース』（Web版）

2013年度の「PRアワードグランプリ」のエントリー募集開始に関する記事が掲載されました。9月2日よりの募集概要、目的、昨年の受賞作品などが紹介されています。

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

F A X 03-5413-2147

※ 禁転載